

自己評価 外部評価結果

【事業所記入】

自己評価記入日	2015年 1月 22日
事業所名 (都道府県)	社会福祉法人いわき会 グループホーム東神田の里 (大阪府)
ユニット名	1階 あかしあ通り
自己評価記入担当者 職名・氏名	職名 介護職員 ユニットリーダー 氏名 古市 政代

【調査員記入】

訪問調査日	年 月 日
調査実施の時間	開始 時 分 ~ 終了 時 分
評価調査員の氏名	氏名 _____ 氏名 _____
事業所側対応者	職名 _____ 氏名 _____ ヒアリングを行った職員数 () 人

○自己評価の意義・目的

- ・自己評価は、事業所自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。
- ・サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。
- ・この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

○自己評価の実施方法

- ・運営者（法人代表者）の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
- ・「評価項目」ごとに評価をしてください。
- ・少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。
- ・今後課題となる点については、別紙【自己評価段階における課題分析】に記入してください。
- ・利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、利用申込者またはその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。
- ・評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

○項目番号について

- 外部評価は20項目です。
- 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
- 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

- [実践状況]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
- [次のステップに向けて期待したい内容]
具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
- 家族 = 家族に限定しています。
- 運営者・代表者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
- 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

○ヒアリングを行った職員数

- 運営者や管理者を含む、調査中にヒアリングした方の総数を記載します。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に理念を掲示し職員が理念を共有し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	すぐとなりが小学校なので、頻繁に交流を持ち、自治会とも連携して、地域の行事等に参加するようにしている。また、散歩の時には近隣住民と必ず挨拶を行うなど、近隣住民との交流を図り、地域住民に気軽に来所していただけるよう努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症の家族の方の思いを聞き、ケアのポイントになるような助言を出来る限り行っている。運営推進会議にも地域の自治会役員の方に参加していただき認知症の方の理解を深めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的に運営推進会議を実施し、施設の利用状況や地域行事への参加、施設に対しての意見を入居者、家族、自治会役員、包括支援センター職員から聞かせていただきサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に現場の実情を積極的に伝え、必要があれば訪問又は、来訪していただき、課題解決に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準および指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が拘束なのかをスタッフ間で共有し拘束のないケアをめざしている。施錠に関しては、不穏状態者がいるためにやむを得ず施錠を行っているが、開錠ができるように職員が話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の虐待については、職員全体で入浴、排泄時等に注意を払い防止に努めており、ユニット内でも職員間で何が虐待になるのかを話し合い確認を行っている。ご家族との契約時にも虐待防止措置の説明し同意を頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている入居者が多くいるので、実際の事例を通して、制度を学び活用できるように支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には入居者やご家族等に十分な説明を行い不安や疑問点を尋ね、不明な点については納得されるまで説明を行い、契約後でもわからないと言われた場合には随時訪問させていただき説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族に運営推進会議へ出席していただき、ご意見、ご要望等をお聞きして運営に反映させている。 又、ご意見箱の設置も行い、意見を取り入れるように努力している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、リーダー会議、ユニット会議を実施して職員の意見を聞き運営に反映させている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間の時間帯については、スタッフがしっかりと休みが取れて夜間および深夜の時間帯以外の時間に人員不足とならないような時間帯の変更を考ええる。 （夜勤を1勤→2勤） 又、資格取得を奨励してやりがいや向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングして行くことを進めている	スタッフ一人ひとりの持つ力量を見極めると共にお互いのケアの方法や技術をユニット会議で話し合い介助方法や技術を勉強している。施設内外の研修には、出来る限り参加すると共に参加できなかった職員にも、伝達講習を開催したり、報告書や資料を見るように指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させて行く取り組みをしている	他事業所の意見・情報交換会などに参加している。 担当ケアマネが連絡会等の事業所連絡会にも参加している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談があった場合は入居者ご本人に必ず一度居室を訪問していただくように声かけて実行している。入居者ご本人に安心して、入居していただくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時に困っていること、不安なこと、要望などを聞いて確認させていただくように努めています。また不安がある場合には、入居契約後であっても、来所していただき説明して信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時の聞き取りは必ず行い、必要と考えられるサービス等は高齢介護室、社会福祉協議会等の公的サービスやその他のサービス等に確認し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできないことに注目するのではなく、できることに目を向け得意なことを促すように努め、読書が好きと聞けば本を用意し、裁縫が得意な方には、縫物を手伝っていただき支え合い関係を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えて行く関係を築いている	本人様とご家族との絆を深めていただく為、基本的な面会時間は決めているが、ご家族の都合に合わせて外出や外泊等を自由に行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方の面会は自由でいつでも来ていただけるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	イスやテーブルの配置等施設内の配置を常に考え必要な場合は座る位置の移動を行う。入居者が楽しく孤立しないように支援し、不穏状態等の場合にも、移動先の入居者に確認後、一時的に席の変更させていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られても、必要な情報は提供している。 転居された方に対しても面会等を行い、関係が切れないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や声かけの際、入居者の表情や態度からその日の気持ちや状態を把握して必要な場合は居室にてお話を聞かせていただいている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや入居者様が以前利用されていたサービスの情報提供をもとに出来る限り今までの生活、暮らしを変えないよう知り得た情報を職員全体が共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの現状を観察し記録に残し、また必要があれば職員間で連絡を取れるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3 ヶ月に一度の見直しは勿論だが、日々状態の変化がある時には、ご家族の意見、意向を尊重しながらその都度会議で意見を出し合い入居者に対し何が良いのかを探しながら計画の変更を行っている。また、月に一度ではあるが、ユニット会議でカンファレンスを行い介護計画に反映させている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わったそれぞれの職員が個人記録に適宜記入を行い、情報を共有し活かし、介護計画作成の基本としている。 伝達ノートを活用してユニット会議で話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が希望のある場合で、職員の対応が難しい場合には、介護保険外サービスを利用できるよう、家族や成年後見人等に確認して利用していただけるように取組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人らしく生活していただけるように、また ADL や IADL の維持に繋がりに、安心・安全に暮らしていただけるように支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人および家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族に寄り添い、かかりつけ医を中心として、それぞれと連絡を取りながら関係を築き、個人に合った適切な医療を受けられるように支援し、受診が必要な場合や希望があれば職員の日程調整を行い受診に付き添っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は勤務していない為、訪問看護師に週一度、訪問していただき、日常の関わりの中での気づきや情報を伝え、相談を行っている。緊急時には24時間連絡出来る体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の入院や退院時には、職員がご家族、成年後見人等と病院に行き、入院手続きや説明を聞き、必要な場合は入院時の付き添いを行い安心して治療が出来るようにしている。また、入院先の医療連携室と連絡を密に行い、入院中の状態や退院後の対応について相談や情報交換等を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、ご家族が訪問された場合にお話をさせていただいている。重度化になった場合は、このまま施設で見てもらえるのかと不安を訴えられる場合もあり、その都度説明を行い、ご家族様の意見や意向を聞かせていただいている。ただ、家族様の中には、「今後、考えます。」とおっしゃる方もおられます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時および初期対応の勉強会を定期的に行っている。全員参加できていない場合はミーティング等により伝達講習を行っている。また、事故、急変時スムーズに対応できるよう、希望搬送先やご家族の連絡先の再確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を通して昼夜の非難誘導や災害時の避難経路を災害マップで確認し、安全な避難方法を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内に接遇委員会を設置し入居者への態度や職員の接遇態度の研修会を行い、毎月の標語を施設内の良く見える所に貼り、職員の意識付けを行っている。職員の対応等、ご家族へのアンケートも実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように声かけを行い自己表現や意見の言い易い環境や関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活面すべてにおいて一人ひとりのペースを尊重し、暮らしの主体者として入居者が自由に自分らしく生活できるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容を取り入れている。また、起床時は洋服を確認し、外出時には、外出着に着替えを行えるように声かけを行っている。又、化粧やマニキュア等も希望の場合に実施している。但し、マニキュアは、透明の物を使用している。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当施設では、食事の提供は栄養面や衛生面を考えて、食材は業者に発注している。今後は、入居者と職員と一緒に食事の準備ができるように手作り食の実施を考えている。また、気候のいい時期にはバルコニーで食事を摂り、好評頂いている。		
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック、排泄、水分チェック表を作成して排泄時間や水分摂取量のチェックを行い一人ひとりの状態を把握し、一日の摂取量が確保できるように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、入居者様の自立度に合わせ、自分で出来る方には、促しを行い、口腔ケア介助が必要な方には職員が介助を行いチェック表で確認を行い、食前には口腔体操を取り入れ飲み込みがスムーズに出来るよう心掛けている。		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄パターンを知り個人的にトイレ誘導や定期的なトイレ誘導をすることにより失敗を少なくするように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、毎日の運動やレクでの風船バレーの実施、おやつ時にヨーグルトや繊維質の食べものを提供し、排泄チェック表を使用して、KOT のカウントを実施、3 日間排便がない場合は、医師の指示により、薬剤を使用して排便を促している。		
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日や時間帯を決めずに行うように支援を行い、午前中を希望される方や一番先に入浴を希望される方、一人で入浴を希望される方を把握して、見守り、介助を行い入浴していただいている。また、入浴していただけない方には、足浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には、スタッフが居室内で一緒にお話をしたり、居間で一緒にお茶を飲んでいただく等、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		

47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は、職員が行っており、各職員には、服薬の副作用や用法、容量は各個人ファイルにお薬の説明書を確認するように伝達している。薬の変更があった場合は変化を医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の入居者の生活歴を踏まえ、趣味嗜好・特技などの把握に努めており、自身の力を発揮できるような関わりを心がけている。また、プログラムやレクにおいても利用者様の意向を伺いながら実施している。		
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暑い日や寒い日等の場合は、出掛けることが出来ないが、個々の希望により散歩等の気分転換を行うように声をかけて外出を行うようにしている。またご家族の来所時には、ご家族とご一緒に外出していただいている。		

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し、使うことが不可能な方が多いという現実がありますが、一人ひとりの希望や力に応じて支援を行います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも利用できるように支援している。希望者により、居室に電話機や携帯電話を置いていただき、家族や大切な人との連絡をとっていただいている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、入居者が皆で作成した貼り絵や入居者が作成した作品を飾る等の工夫を行い、入居者が快適に過ごせるようにしている。又、スタッフが温度調節やカーテンで光の調整を行っている。		
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様の使い慣れた物を入居時に持参していただき、ご本人様が居心地よく生活していただけるように努めている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し本人が落ち着け居心地良く過ごせるよう、ラジオ、テレビ、椅子、机等、各個人に馴染みのある品を置いていただき、居心地の良く過ごせるよう努めている。また、本人に確認して、ぬり絵、書道等の作品を壁に貼っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には貼り紙を行い場所が明確になるように工夫している。		

自己評価 外部評価結果

【事業所記入】

自己評価記入日	2015年 1月 22日
事業所名 (都道府県)	社会福祉法人いわき会 グループホーム東神田の里 (大阪府)
ユニット名	2階 けやき通り
自己評価記入担当者 職名・氏名	職名 介護職員 ユニットリーダー 氏名 上田 淳

○自己評価の意義・目的

- ・自己評価は、事業所自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。
- ・サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。
- ・この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

○自己評価の実施方法

- ・運営者（法人代表者）の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
- ・「評価項目」ごとに評価をしてください。
- ・少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。
- ・今後課題となる点については、別紙【自己評価段階における課題分析】に記入してください。
- ・利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、利用申込者またはその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。
- ・評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

【調査員記入】

訪問調査日	年 月 日
調査実施の時間	開始 時 分 ～ 終了 時 分
評価調査員の氏名	氏名 _____ 氏名 _____
事業所側対応者	職名 _____ 氏名 _____ ヒアリングを行った職員数 () 人

○項目番号について

- 外部評価は20項目です。
- 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
- 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

- [実践状況]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
- [次のステップに向けて期待したい内容]
具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
- 家族 = 家族に限定しています。
- 運営者・代表者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
- 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

○ヒアリングを行った職員数

- 運営者や管理者を含む、調査中にヒアリングした方の総数を記載します。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットには理念を掲げ共有して実践に繋げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	すぐとなりが小学校なので、頻繁に交流を持ち、自治会とも連携して、地域の行事等に参加するようにしている。また、散歩の時には近隣住民と必ず挨拶を行うなど、近隣住民との交流を図り、地域住民に気軽に来所していただけるよう努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	施設入口に介護相談を掲示し、認知症の方の情報発信地となるよう相談に応じている。相談者の思いを聞かせていただき助言をしている。運営推進会議にも地域の役員に参加していただき、認知症の方の理解を深めるよう働きかけている。今後は、自治会と協力して認知症についての講習会等を開催するようにします。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を実施し、施設の利用状況や地域行事への参加、施設に対しての意見を入居者・家族・町内会役員・市役所職員・包括支援センター職員から意見を聞きサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密に取りどんな小さなことでも極力報告すると共に的確なアドバイスをいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや研修等を通して身体拘束しないケアの実践を目指している。施錠に関しては、やむを得ずに行っているが、開錠に向けて必要なことを職員で話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや研修で学ぶ機会を設けている。虐待が見過ごされることがないように万全の注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人や日常生活自立支援制度を利用されている入居者がいるため、実際に入居者と関わりを持ちながら制度を学び活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約の時には必ず重要事項の説明及び、施設見学を含め、本人・家族様が十分理解納得をされた上で、署名捺印を、いただくようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者及びご家族等の要望を申し送りノートに記載しスタッフに説明を行い出来る限り早期解決への対応を図っている。また、運営推進会議において、入居者・ご家族にも参加していただき、外部者へ表せる機会を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や委員会等で意見や提案を聞き、管理者は代表者に早急に報告、相談しできるものはすぐに実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間の時間帯について話し合った結果、時間帯を変更しスタッフがしかりと休みがとれ、かつ日勤帯に人員不足にならないように勤務時間を変更した。（夜勤の1勤制を2勤制に変更） また資格取得を奨励する事により、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人の持つ力量を見極めると共に、お互いのケアの方法や技術を交換する機会を持つように心がけている。また、法人内外の研修に参加しているが、参加できなかった人にも認識できる様伝達講習を行い知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や地域包括支援センターが主催する他事業所の意見・情報交換会などに参加している。また、介護支援専門員は、事業所連絡会に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の安心を得る手段として“1人じゃないよ”というケアに取り組み極力リビングで他入居者様と一緒に過ごしていただき、傍にスタッフがいて一緒に話ができる状況をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族が困っていたこと・不安であったことなどを聞かせていただき、ご家族の要望もあわせて取り入れるようにしている。ただし入居者の状態に応じて変更することもあり、その都度報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時の聞き取りは必ず行い、的確な支援を提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来ることを見つけ、簡単な家事労働等手伝っていただいている。また、本人の得意な事、ユニット会議等で趣味など自分から積極的に取り組めるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時間帯は決まっているが、ご家族の都合等もあり、ご家族の都合の良い時間に来ていただき外出・外泊・外食等自由にしていただいている。ご家族の絆が途切れないよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方の面会は自由でいつでも来ていただいている。 また、馴染みの場所に訪れていただくようご家族の協力も得ている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で歌を合唱し様々な話をし て過ごされている。時々話がかみ合わなく、トラブルになりそうな時は、スタッフが仲裁しながらも、気分転換を図り入居者同士の関係が悪くならないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られても必要な情報は提供している。転居された方に対しても面会等行い、関係は途切れないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り入居者の思いに沿うよう、自由に生活をしていただいているが、場合により思いに沿えない事がありユニット会議やカンファレンス等で事例を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや入居者が以前利用されていたサービスの情報提供をもとに、出来る限り今までの生活・暮らしを変えないように情報をスタッフ全員が共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしを観察し、入居者一人一人の残存機能を見極め、出来ることを促がし少しの介助で現状維持が出来るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度の介護計画の見直しはもちろんだが、日々状態の変化があるためご家族の意見・意向を聞かせていただき、尊重しながらその都度、会議で意見を出し合い入居者に対し、何が良いのかをふまえて計画を変更している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常にスタッフが気づいたことや、普段と違う行動・言動があったときには「気づきノート」に記入し共有しながら実践している。また、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人一人のニーズに対してはその都度対応し、どうすればニーズに沿えるかを考えることにより、必然的に既存のサービス以外のことでの対応も検討・導入している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方の活用や、地域の行事に参加していただくことで社会参加していただけるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族と相談し、かかりつけ医と連絡を常にとっている。また2週間に1度のかかりつけ医の往診と週1回の訪問歯科・訪問看護による健康管理に加え、他科の受診を支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の来所時に、入居者の状況を報告している。また、薬の変更や服用方法のアドバイスをもらっている。緊急時には24時間連絡できる体制を整えている。日々のケアを通じて状態の変化や異常を訪問看護に詳しく伝え対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者の入院については介護サマリー等、詳しく情報提供を行っている。また、お見舞いに行く事により、医師や看護師に状態を聞いている。退院時には病院より看護サマリーをいただきスタッフが共有し、状態の変化の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、契約時にご家族と、お話をさせて頂いている。重度化になった場合は、このまま施設で見てもらえるのかと不安を訴えられる場合もその都度説明を行い、ご家族の意向を聞かせて頂いている。ただ、ご家族の中には、「今後考えます。」とおっしゃる方もおられます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、マニュアルを作成している。また、研修を開催して急変や事故発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を通じ昼夜の避難訓練および災害時の避難経路を災害マップで確認し、安全な避難方法を検討するとともに、地域の消防訓練にも参加し、協力体制をお願いしている。 また、運営推進会議において地域の方への協力要請を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆっくりと個々の入居者様に合わせた声かけ・介助を行うようにしている。少しでも不穏を無くす為に傾聴や散歩等、気分転換を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	自己決定できるように常に声掛けを行っている。また、自己表現や意見を言いやすい環境や関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームは施設ではなく、居室は家であり、居間は町内であるということを中心にケアを展開しているので、基本的には入居者の思い通りに過ごしていただき、ゆったりとした空間を提供しています。時には、散歩に出掛け、また様々なレクリエーションを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容を取り入れ個人的に化粧水等持参されている方については、起床時や入浴後などに使用していただいている。また、外出時の服を選ぶように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者に委託しているが、手作り食の機会を出来るだけ設け、入居者と職員と一緒に食材の準備、片付け等を行う機会を増やしている。職員と入居者が同じテーブルで食べるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	1日の食事量・水分量についてはその 都度記入し、スタッフが共有すること により、少ない場合は水分を摂るよう に声かけを行い1日の量が確保でき るように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは個々で行っていた だいた後スタッフが確認、仕上げをす るようにしている。また、毎食前に口腔 嚥下体操を実施している。又、1週間 に1度訪問歯科の往診があります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄パターンを知 り、個人的にトイレ誘導を行うことで失 敗を少なくするように努めている。また 排泄時には必ず声掛け見守りを行い 出来る限り失敗をなくす様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の対応については、適度の運動 及び、食事量・水分量を確認し、不足 に対しては水分を摂取していただき、 医師や看護師と相談しながら便秘薬を 使用することにより排便コントロールを している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を実施している。入居者の希望で2日間続けて入浴される入居者もあり希望に沿った対応をしている。また、入浴剤等により、リラックスして頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調により臥床を促したり、その方のお好きな時間に臥床していただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の一人ひとりの薬の表を作り、個人が飲まれている薬の数を確認すると共に、処方箋や用法・用途により副作用等を知る。薬が変わった時には変化を確認し医師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体でのレクリエーションではなく、個々の楽しみとして趣味を取り入れ裁縫、塗り絵、読書、歌などで楽しまれています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	真夏の炎天下以外は、個々の希望により近隣への散歩をすることにより気分転換を図っている。またご家族が一緒に外出してくださることもある。四季折々の花見等の外出機会を増やしている。今後も外出支援に努める。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し、使うことが不可能な方が多いという現実がありますが、一人ひとりの希望や力に応じて支援を行います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族より届いた手紙は、ご本人にお渡ししており、電話についてはご本人の意向で、お話していただいている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間でテレビを観ておられるも、聴こえにくいと自己にて音量を上げられる時もある。壁面については、季節を大切に、その季節の行事や花などを入居者と一緒に作り、飾ることで季節を感じていただくようにしている。また、行事に応じ手作りお寿司や、おやつ等もスタッフと一緒にやっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の配置変えや好きな時間に好きな方と一緒に過ごせるように支援を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、ご本人にとって使い慣れたものや、馴染みのあるものを持って来ていただいている。出来るだけ自宅の環境に沿った居室での生活を過ごせるよう支援している。 転倒リスクの高い方については、居室内をすっきりさせ居室を畳にしているところもある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室に、表札とは別にドアに名前を書いて貼ることで、他入居者の居室と間違わないように配慮している。また同様にトイレも、しっかりわかるように案内を貼っている。		